# 社会科学古典資料センター長に就任して
# A Modest determination as the Newly Appointed Director

渡　辺　雅　男
WATANABE Masao

2008年12月1日付けで斎藤修教授の後を継いで附属図書館長に就任し，それに伴って社会科学古典資料センター長に就任しました。どうやら館長としては第26代目，センター長としては第13代目になるようです。

社会科学古典資料センターは1978年（昭和53年）に附属図書館から分離して設立されました。私が修士課程に進学した頃（1974年）このセンター所蔵の個人コレクションや貴重書はまだ建て替え前の附属図書館本館四階の貴重書庫に置かれていました。院生になると2階の受付カウンターで鍵をもらい，自由に出入りすることができたおおらかな時代です。メンガー文庫やギールケ文庫の匂いを嗅ぎ，手触りを楽しんで研究者に一歩近づいた密やかな感覚を楽しんだこともいまは昔の遠い思い出です。

そんなことを思い出したのは，当センターの原点があくまで附属図書館にあるということを申し上げたかったからなのです。センターの歴史こそ30年と比較的新しいものですが，その源流は1921年，翌22年の上記二文庫の購入にさかのぼることができます。おりしも長年の大学昇格の夢が実現し，図書館の充実に大学が挙げて取り組んでいた頃のことです。官制による附属図書館の設置は1926年，両文庫の購入から4，5年も後のことですから，現在の図書館は実は両文庫のために設置されたといってもよいくらいでしょう。ベルリン留学中の若き教授たちの尽力で招来した両文庫は，その後，左右田文庫（1929年），フランクリン文庫，ベルンシュタイン・スヴァーリン文庫などを加え，一橋が世界に誇る一大社会科学コレクションの核となっていきます。これまで一橋大学が乏しい予算を割いて世界有数のコレクションを構築してきてくれたことに，現在の私たちは深く感謝するとともに，あわせて一橋大学を守り育てた人々の見識の高さを感じつつ，これらの蔵書を守り活用して，その価値をまっとうする責任を痛感いたします。

センターの活動は，コレクションの受入れ，保存，修復（目録作成や修復工房），社会科学古典資料を中心とする研究（講演会の開催，研究成果の刊行）と教育（各種の講習会）など多岐にわたっています。また，こうした活動は専門家に向けたユニークなものとして，いまや広く内外で高い評価を受けています。もちろん，こうした従来からの地道な活動に加え，センターは意欲的な試みにも挑戦しています。昨年12月，2週間にわたって開かれた小展示「文豪たちの書斎－センター所蔵書簡コレクションから－」がそれです。専門家を対象にしたこれまでの企画と異なり，一般市民に向けて「フランス文学歴史書簡コレクション」を公開し，書庫見学もあわせて行なうことにより，一般市民にセンターの活動を知っていただくよい機会になったようです。参加した市民の感想の中には，センターの今後の活動を活性化させるヒントも多々隠されています。このようにセンターはひっそりと，しかし，着実に活動を充実させています。限られた予算の中で，これらの業務に日々取り組んでおられるセンター所属教授，助手，職員の方々のご尽力には改めて感謝したいと思います。附属図書館と手を携え，本学が誇る貴重書を内外の利用者に広く公開し，社会科学の発展と活性化のために，努力を続けていきましょう。